

秀作

2022

第20回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

## 家族の背中から見えた経済

宮崎県・宮崎県立日南振徳高等学校 3年 河上 愛

私の家の家業は、今年で創業50周年となるマグロ漁船です。私がまだ生まれていない祖父の時代から始め、その祖父が亡くなったときに後継者がいなかったため、父が婿養子となり今も継がれ続けています。また、今は父の体調不良もあり兄が船頭として経営しています。

私は昔から、母の経理の仕事も見てきて、好景気もありましたが、不景気の時代もありました。マグロ漁船の利益で生活してきているため、魚が釣れないと不景気になり、少々生活するのに我慢しなければならないときもありました。頭を抱える母を見てきて、魚が釣れずイライラする父や兄を見てきて、幼かった私は何もできずにいました。そんな惨めな思いもあり、少しでも手伝いたくて、商業科のある今の学校を選びました。今では、高校3年生になり、パソコンを使えるようになったので、母の経理の仕事を教わりながら手伝っています。

今のマグロ船の大きな課題は、マグロを釣れる数に規定ができたことです。水産庁からの指示でクロマグロ、通称本マグロの漁獲規制が始まって、多くの漁業者に大きな衝撃が走っています。私の家の船は、19トンのため、年間2トンしか釣ってはいけないと聞いています。規制がかかってからは、多くのマグロをリリースしなければならぬため、海の中のマグロは確実に増え続けています。それでも目の前でマグロをリリースしなければならぬ、この経営者としての<sup>むな</sup>空しい気持ちは、どこで、誰が補えるのでしょうか。これでは生活もできず、父はとても悩んでいました。

そんなとき、マグロ船でサメを釣っている船を知り、経験したことのない漁法ではありましたが、一から始めました。初めは<sup>うま</sup>上手くいかず、赤字になることばかりでした。父が苦しんでいるとき、「生活のことは考えなくていいから納得いくまで挑戦してみて」と、母は父を支え、励まし続けました。誰もが知っていると思いますが、やはりサメは恐ろしい魚です。船員もケガをしたり危ない目にあっ

たりしてきているため、見守るこちら側、陸の人間もとてもドキドキしていました。やったことのないことを手探りから始めましたが、今はもう慣れて、景気が良くなり、「うちの必殺技」と私は密かに呼んでいます。

マグロがまるまると太った頃をうかがい、2トンというわずかな漁獲量で勝負する時期とし、そうではない時期にはサメを獲る。この方法で私は何不自由なく生活できています。父や兄は、たまに本マグロではない、他の種類のマグロを沢山、気仙沼港からこちら宮崎に送ってくれることがあります。「お世話になっている人に配ってほしい」と言って送ってくれるので、お世話になっている同業者から身内、親戚、友達にまで、それもお金も取らず無料で配ります。私も母も誇らしい気持ちで配るたびに「ありがとう」と言ってもらえるので、とても嬉しい気持ちになります。私は、私の家族を心から尊敬しています。

また、うちはインドネシア人を雇い、「みんなでチーム」と家族みんな言っています。インドネシア人はみんな「日本語は難しい」と言っています。でも、日本語が上手な人もいるため教えあいながら働いているようです。あまり日本人とインドネシア人が仲良くすることはないので、特に兄は仕事とプライベートにメリハリを付け、あだ名を付けて呼びやすいようにしてしっかりとコミュニケーションをとっているとっていました。それもあって、仲良しのため、宮崎に帰ってきたときには私や母とも和気あいあいと話せるくらいです。

私は、家を継いでもよいと思っていましたが、家族から「お前だけは外の世界を見てきなさい。家に縛られなくていいからやりたいことをして、たまに手伝うくらいでいい。」と言われました。だから私だけ全く違った道に進みます。新しい道に導いてくれ、私のことを最優先に考えてくれた家族に私は感謝しようと思います。

船で釣り上げたマグロを使って、母は副業として食品加工業も営んでいます。父や兄たちが釣ってくれたマグロを利用し、天ぷら(魚のすり身揚げ)のすり身を作って販売しています。小さいですが工場を持ち、母とパートの人と、たまに私も含めて働いています。これは20年くらい前から始めていることもあって、今ではすぐに売り切れるくらい繁盛しています。船のマグロと母の技術で連携してできた商品は、とても美味しくて、私も大好きです。私は、栄養の道に進むので勉強し、将来家族を助けられる人材になれるよう、自分なりに頑張ろうと思っています。

家族の背中を見てきて、経営者になることはとても大変だと感じました。しかし、仕事の大切さや、経営者の姿勢、働き方などを学ぶことができました。今までは自分の家のことなのに詳しく知ろうとしてこなかったのが、この小論文を通して自分から調べることができて良かったなと思いました。私も、父や兄や母のように優しい心を持ちつつ、何事にも挑戦し、諦めない気持ちをもってこれから頑張っていきたいです。

